



## 南天の星空ガイド 誰でも見つかる南十字星

谷川正夫 著

地人書館 定価 1,800円+税 144頁

読み物  
お薦め度  
4  
☆☆☆☆★

南十字星と言えば、だれもが聞いたことのある南天のシンボルである。私は大学院生のころからASTE望遠鏡、ALMA望遠鏡のために何度もチリに渡航しているので最早おなじみの星の並びだが、チリに行くまではやはりほのかな憧れを南十字星に対して抱いていたように思う。初めてのチリ渡航で、航空機トラブルのために2日間以上かかった移動の末にアタカマ砂漠のホテルに着いたとき、車から降りてふと見上げると目に飛び込んできた南十字星の姿は忘れることができない。「ああ、ついに来ちゃったんだな」という思いを強くさせてくれた星々である。

本書は、そんな憧れの対象であることが多い南十字星について、実際に見る・写真を撮る方法を紹介したものである。まずは星の日周運動や角度の測り方など基本的な事柄の紹介から始まり、観光地としても人気の高いハワイ、サイパン／グアム、パラオ／モルディブ、バリ、フィジー／タヒチ、シドニーから何月ごろの何時にどの方角・高度に南十字星が見えるかが、図を交えてわかりやすく紹介されている。また国内（沖縄・石垣・小笠原）での南十字星の見え方も紹介されている。ふだん星を見慣れていない人にとっては、実際に即したこのような基礎情報は重宝するだろう。また各地の簡単な観光地紹介と合わせて、どこに行けば暗い夜空で星を眺められるかという情報も掲載されている。南十字星だけ見るのであればそれほど街明かりは気にしなくてもいいだろうが、天の川や大小マゼラン雲などを楽しむにはやはり暗

い夜空が必要だ。普通の観光ガイドブックには載っていないであろうこういう情報はありがたい。防犯の観点から、場所によってはホテルの敷地内やベランダから楽しむことを勧めるという心遣いもよい。

見え方の紹介の後には、南十字星にまつわる神話などのエピソードと合わせて撮影の仕方も紹介されている。一眼レフやコンパクトデジタルカメラは広く普及しているし、手軽に星の写真も撮影できるから、旅の思い出によいだろう。また南十字星のほかに、大小マゼラン雲やおメガ星団、雄大な南天の天の川の見え方も紹介されており、巻末には簡単な星図もつけられている。北半球で星を見慣れた人でも南の星座をたどるのは難しい、というのは私自身も実感したことであるが、このようなガイドマップが一つあるとエキゾチックな星座たちをたどるのも楽しくなるだろう。

この本の著者は天体写真の撮影指南書などを執筆されている方で、著者自身がさまざまな土地で撮影した南十字星をはじめとする星々の写真が数多く掲載されており、読者を南国の星空へ誘ってくれる。この本のメインターゲットは天文月報の読者とはオーバーラップしないかもしれないが、「旅の楽しみは星空にもあることに気づいてほしい」という本書あとがきのとおり、南半球へ赴く多くの旅行者がこの本を手にも南天の夜空を楽しんで欲しいと思う。

平松正顕（国立天文台チリ観測所）